

FUJITEC

フジテックを守る

フジテックの追加説明資料に対する オアシスの反論

2023年2月

www.protectfujitec.com



FUJITEC

免責事項

本資料は、委任状勧誘（議決権の代理行使の勧誘）に関する規則が適用されるような、議決権の代理行使を勧誘する意図はありません。

また、当社は、株主の皆様に対して、共同で議決権を行使することを何ら勧誘・要望するものではありません。共同して議決権を行使することに合意した株主は、日本の大量保有報告制度における「共同保有者」とみなされ、日本の関連当局に総額ベースで株式保有の届出を行い、公開することが必要となります。

当社は、本ウェブサイト上で意見表明したり、あるいは、他の株主との対話等の行為によって、金融商品取引法上の共同保有者と見做される意図は全くありません。

この声明および関連資料は、来たる株主総会におけるオアシスの意見、解釈、および推定を独占的に表しています。オアシスは、その有するプライベートのファンドの投資顧問としての立場のみにおいて、本意見を表明しています。

フジテックの更なる誤情報及び攻撃に対するオアシスの見解

この数ヶ月間、オアシスはフジテックに関する調査の結果を開示し、会社に対して様々な疑問や課題を提起し、フジテックの主張に対する反論を行ってきました。オアシスがこれまでに作成したすべてのプレゼンテーション資料はwww.protectfujitec.comに掲載されています。

- 2022年5月の関連当事者取引に関する資料は[こちら](#)をご覧ください。
- 2022年12月の臨時株主総会開催招集時の資料は[こちら](#)をご覧ください。
- フジテックが臨時株主総会における株主提案議案への反対を表明した後、2023年2月にオアシスが作成した反論資料は[こちら](#)をご覧ください。

本プレゼンテーションは、2023年2月10日付にフジテックが公表した「臨時株主総会に係る当社見解に関する追加説明資料」および「当社臨時株主総会の付議議案に関する議決権行使助言会社 Institutional Shareholder Services Inc. 賛否推奨に対する当社の見解」に対するオアシスの見解を表すものです。

最新の開示資料においても明らかな通り、
フジテックは再びオアシスが提起した問題や疑問には一切触れることはなく、
すべて誤解を招くような、あるいは実質的ではない回答ばかりを羅列しています。

フジテックは現任の社外取締役に対する懸念に(未だ)言及せず

フジテックは現任の社外取締役が在任期間中に、経営陣による悪質な行為を見過ごし、自らも悪質な行為に加担するなど、株主を含むステークホルダーの利益の保護という責務を果たさなかったことについて、未だに全く言及していません。フジテックはこれらの問題や疑問に回答しようとせず、代わりに株主の注意を逸らすことに専念し、オアシスが提案している社外取締役候補者に個人攻撃を行っています。詳細は、オアシスが昨年12月に公表したプレゼンテーション資料(参考)をご確認ください。

社外取締役の実績

監督責任の不履行の例	杉田 伸樹	山添 茂	遠藤 邦夫	引頭 麻実	三品 和弘	大石 歌織
不備のある第三者委員会の設置	決議に参加	決議に参加	決議に参加	決議に参加	決議に参加	決議に参加
不備のある第三者委員会委員長候補の人選					選定委員会委員	選定委員会委員
株主総会での承認を経ない会長職への内山氏の任命	決議に参加	決議に参加	決議に参加	決議に参加	決議に参加	決議に参加
内部告発者の保護の失敗	責任あり	責任あり	責任あり	責任あり	責任あり	責任あり
北浜法律事務所とフジテックの歴史的なつながり						北浜出身
内山氏の取締役再任議案の取り下げ	決議に参加	決議に参加	決議に参加	決議に参加		
西村あさひ法律事務所による不適切な調査	決議に参加	決議に参加	決議に参加	決議に参加		
市場の誤解を引き起こす開示	責任あり	責任あり	責任あり	責任あり		
利益相反のある西村あさひ法律事務所の選任	選任者	選任者				
第三者委員会を組成して取引を調査してほしいという、オアシスからの書簡での要請を無視	レター受領	レター受領	レター受領	レター受領		
経営戦略の監督を怠った(Vision24)	決議に参加	決議に参加	決議に参加	決議に参加		
関連当事者取引実行時に取締役会にいたか	いた	いた	いた	いた		
指名プロセスの不備に対する監督	指名報酬委員会委員	指名報酬委員会委員				
サクセッションプランの欠如	指名報酬委員会委員	指名報酬委員会委員				
リスク管理・統制の甘さ	責任あり	責任あり	責任あり	責任あり		
ESGについての不十分な監督	責任あり	責任あり	責任あり	責任あり		
社外取締役候補者に対する不誠実な個人攻撃に加担	責任あり	責任あり	責任あり	責任あり	責任あり	責任あり

ISSはオアシスの株主提案すべてに賛成推奨(1/2)



独立した大手議決権行使助言会社であるISSは、フジテックの現任の社外取締役役に代わる独立した新任の社外取締役6名を選任するというオアシスの株主提案のすべてに賛成推奨しています。ISSの議決権行使助言は、オアシス提案議案に対する賛成と会社提案議案への反対を推奨しており、以下のように述べています。（以下、オアシス記）

業績に関するISSのコメント

「フジテックの2022年3月期時点でのROEは9.1%にとどまり、Kone社の31.9%、Schindler社の20.2%（Refinitiv社のデータに準拠）と比較して著しく低い状況です。また、過去5年間ににおいても、同業他社のROEと比べて10.3-18.7ポイント劣ってきました。」

「内山高一氏（前代表取締役社長兼CEO）による長年のリーダーシップの下、フジテックの企業価値評価はエレベーター業界の他社と比較して長らく低迷してきました。また、最適な資本構造をとってこなかったために、フジテックのROEとROICは同業他社と比べて劣っています。」

フジテックのガバナンスに関するISSのコメント

「同社は、社外取締役や女性取締役の比率が高いことを理由に、日本の上場企業の中で（ガバナンス面で）最も先進的な企業であると主張しています。しかし、社外取締役が株主の懸念に対して不適切かつ不十分な対応を行ってきたことを踏まえると、フジテックの主張とは違った現実が見えてきます。長期間に渡り在任していた社長兼CEOに対して、多くの株主が取締役会に残るべきではないという投票をしたにもかかわらず、同氏が取締役会に対して強大な影響力を有する結果、取締役会は同氏が会社に影響を及ぼし続けられる状況を維持したのです。」

「このような場合（関連当事者取引等、問題の指摘がある場合）、独立した外部の人間で構成される第三者委員会を設置して詳細な調査及び、詳細な調査報告書を提出させるのが、一般的な慣習です。しかし、フジテックはそうせず、過去に法務アドバイザーとして取引関係があり、現在も案件ごとに起用している法律事務所から弁護士を一人選んで、本件を調査させることを選びました。さらに問題なのはその時系列です。フジテックの取締役会は5月25日に平尾氏の調査報告書を受領しているにもかかわらず、受領前にすでに関連当事者取引に関して問題ないと公表しているのです。」

ISSはオアシスの株主提案すべてに賛成推奨(2/2)

ISSの結論

「取締役会が取ってきた前例のない行動は、株主の最も基本的な権利である議決権及び、取締役を選出する権利を損なっただけでなく、フジテックが自称しているガバナンスの改善意欲とは真逆の行動です。」

「株主の反対にもかかわらず、内山氏の（会長職への）再任を決めたことからわかるように、もはや、経営陣に対する信頼が回復不能なほど既に失われていること、そして、現任の取締役会は、内山氏が会社に及ぼしている強力な影響力に打ち克つ力がないと考えられることから、取締役会の総入れ替えというオアシスの主張は理にかなっていません。」

「以上のことから、現任の社外取締役の6名全員の解任議案への賛成投票と、オアシス推薦の候補者全員に賛成投票することは当然のことです。取締役会のガバナンス上の行動に問題があり、また、昨年の問題を引き起こした2022年の第75期定時株主総会以降の取締役会の行動を踏まえると、会社提案の新任社外取締役候補者の2名ともを支持しません。」

「会社提案の取締役が選任された場合、オアシス側の社外取締役が取締役会の少数派となるリスクがあります。会社提案の取締役候補者が選任され、現任の社外取締役6名が解任されても、会社側の取締役は5名であり、オアシス側の社外取締役候補が6名未満となると、現状維持のリスクがあります。」

「内山氏の会社での存在感を考えると、オアシス側の候補者が取締役会の少数派にとどまった場合では、望ましい変化まで求めることは難しいと見られます。」

第1号議案：会社提案の社外取締役候補者2名の選任



ISS ▶

「定時株主総会以降の取締役会の行動を踏まえると、会社提案の新任社外取締役候補者の2名ともを支持しません」

第2-7号議案：現任社外取締役の解任、株主提案の独立した社外取締役候補者6名の選任、取締役報酬制度の導入



ISS ▶

「現任の社外取締役の6名全員の解任議案への賛成投票と、オアシス推薦の候補者全員に賛成投票することは当然」

臨時株主総会の議案に対するオアシスの推奨

2023年2月24日に開催される臨時株主総会において、オアシスは以下の投票を株主の皆様に推奨しています。

議案	オアシスの推奨	ISS 	内容
1			フジテックは、真に独立しているとは言えない、2名を社外取締役として追加選任することを提案しています。
2			オアシスは、内山家との関連当事者取引には明らかに不適切であるという証拠がこれほど揃っているにもかかわらず内山家のフジテックへの支配に保護を与え、内山氏を株主総会での承認を経ずに済む役職「会社の会長」なるものを創設して祭り上げ、その他、社外取締役としての責務にも失敗してきたことを踏まえ、現任の社外取締役全員の解任を求めます。
3			オアシスは、6人の真に独立した社外取締役候補者を選任しました。この候補者は、それぞれ多様な能力と経験を有しています。全ての株主のために働き、中長期的にフジテックのガバナンスと企業価値を向上させます。
4			
5			
6			オアシスは、社内及び、社外取締役と株主との利害関係を一致させるために、株式報酬等を提案しています。
7			

現任の社外取締役の解任議案に賛成推奨、および新任社外取締役候補者の選任に反対推奨
オアシス提案の新たな独立社外取締役候補者の選任議案に賛成推奨
及び、利害関係者と利益を一致できる取締役への報酬議案に賛成推奨

株主に誤解を与えることを目的としたフジテックの主張

フジテックはこの度、オアシスとオアシス側の独立社外取締役候補者だけでなく、独立した大手議決権行使助言会社であるISSをも攻撃し、株主に誤解を与えて注意を逸らすことを目的とした資料を新たに公表しています。

#	フジテックの主張	妥当性
1	2022年定時株主総会の結果：「Oasisが主張している約65%の反対票が投じられた事実は存在しない」	✗
2	内山家を巡る問題：「関連当事者取引に関する第三者委員会を立ち上げることを決議したことに伴い、調査結果が出るまで取締役役に就任しないことを取締役会で判断したため」	✗
3	第三者委員会の調査：「第三者委員会による調査が継続中である現状でISS社が当社ガバナンスに欠陥があると判断していることは極めて遺憾」	✗
4	オアシスの予期せぬタイミングの請求に困惑：「第三者委員会からの調査結果が出ていない状況でOasisから本臨時株主総会の開催請求を受け、当社といたしましても予期せぬタイミングでの請求に困惑」	✗
5	社外取締役候補者との面談プロセス：「指名・報酬諮問委員会の社外取締役による面談を打診したものの、Oasisより拒否されたため、社内取締役が候補者全員との面談を実施」	✗
6	社外取締役の資質：「いずれの候補者も東証プライム市場上場企業である当社取締役に必要な資質を有するとは到底判断できず、株主提案候補者及び関連する報酬議案に反対の意見表明をしております」	✗
7	経営支配権：「社外取締役を全員入れ替えるという本株主提案は、社外取締役が取締役会の3分の2を占める当社にとっては実質的な経営支配権の奪取を画策しているものであります」	✗

現任の社外取締役の解任議案に賛成推奨、および新任社外取締役候補者の選任に反対推奨
オアシス提案の新たな独立社外取締役候補者の選任議案に賛成推奨
及び、利害関係者と利益を一致できる取締役への報酬議案に賛成推奨

フジテックの主張①: 2022年定時株主総会の結果(1/3)

OASIS 議決権行使結果及び、ヒアリング結果から、内山高一氏への投票はおよそ65%とみられる

FUJITEC 「Oasisが主張している約65%の反対票が投じられた事実は存在しない」

OASIS ...であれば、フジテックが当該議案の結果の閲覧・謄写を拒み続けているのはなぜか？

2022年6月23日 FUJITEC

オフレコでのフジテック広報からメディアへの説明

総会当日という異例のタイミングで撤回に至ったのはなぜか。(中略)「票読みとは一切関係がない」(東洋経済)

ワールド・ビジネス・サテライトにて行ったフジテックの説明

テレビ東京: 「内山社長の代表取締役再任議案の撤回が発表されました。オアシス側の指摘をある種受け入れた？」

土畑氏: 「いや、そうじゃない。取り上げた理由は内山氏本人がこういう状況であるので第三者委員会の結論がでるまでは取締役としてくくらない方がいいのではないか。」

ではなぜ、フジテックは議決権行使書面の閲覧、および謄写を拒んだのか？

2022年6月24日 FUJITEC

2022年の第75期定時株主総会直後に、オアシスは議決権行使書面(含む電磁的記録)の閲覧・謄写を求めたが、フジテックは以下のよう拒否した。

内山の取締役選任議案は撤回しておりますので、インターネットでの議決権行使分における第5号議案のうち、**内山の取締役選任議案(5の1)は非表示とする形で閲覧謄写の対象**にさせていただきます。なお、書面での議決権行使分につきましては、当社の議決権行使書面における第5議案の様式が、取締役の選任議案につき個別に賛否を記載する形になっていないこと、また、**書面による議決権行使をした株主は個人株主が多く、議決権全体に占める割合も多くないこともあって(約8%)、本総会の各議案の決議の成否に与える影響は小さいことから、議決権行使書面それ自体を閲覧謄写の対象外にさせていただきますたく存じます。**(フジテックの回答)

フジテックの主張①: 2022年定時株主総会の結果(2/3)

オアシスは、フジテックの主たる機関投資家が2022年の第75期定時株主総会でどのような投票を行ったか、議決権行使指図結果の個社別開示を確認しました。下表のとおり、**圧倒的多数の投資家が内山高一氏の再任議案に反対票を投じました**。非開示とは、内山高一氏の再任議案には議決権行使を開示していないものの、他の議案に対する議決権行使結果は開示している投資家です。なお、そもそも、議決権行使の記録を一切開示していない投資家は含みません。

内山高一氏再任議案における機関投資家の投票行動

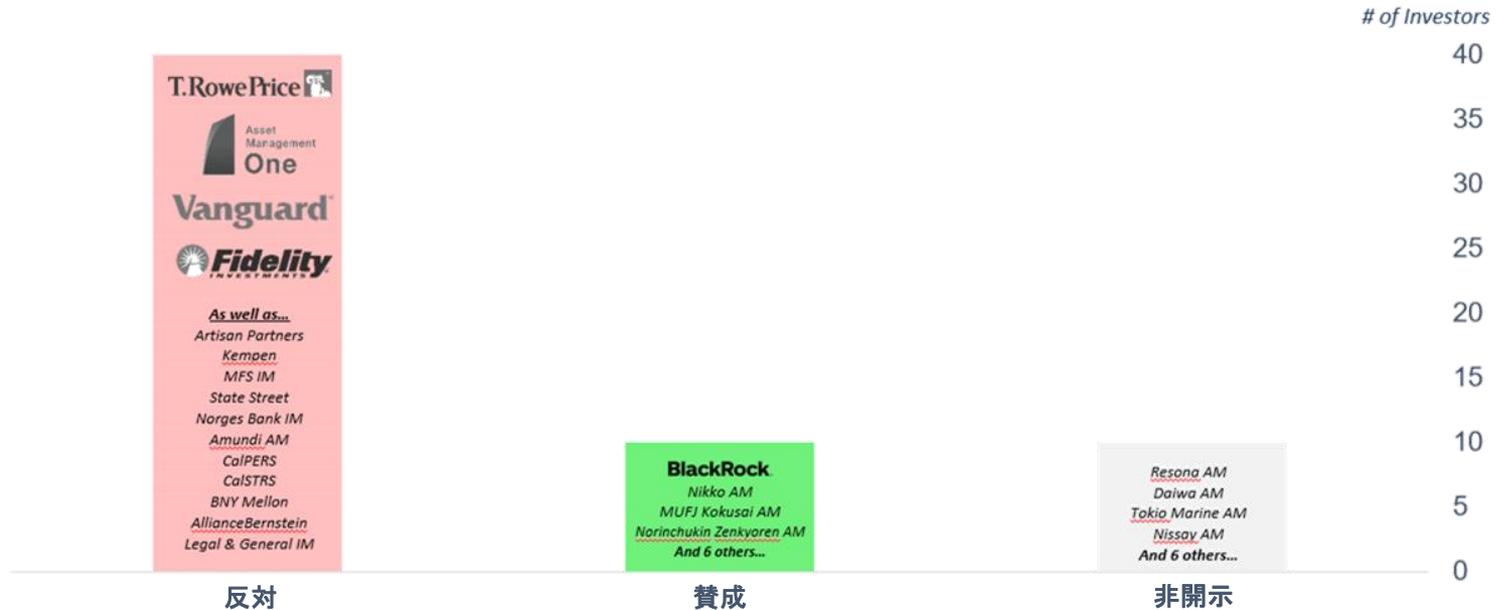
内山高一氏に反対投票		内山高一氏に賛成投票	内山高一氏の議案への投票非開示
<ul style="list-style-type: none"> ▪ AllianceBernstein ▪ American Century ▪ Amundi AM ▪ Artisan Partners ▪ アセットマネジメント One ▪ Asset Value Investors ▪ Bessemer Investment ▪ BNY Mellon ▪ CalPERS ▪ CalSTRS ▪ Charles Schwab AM ▪ Colorado PERA ▪ Dimensional Fund Advisors ▪ Driehaus ▪ ERS of Texas ▪ Fidelity Investments ▪ Geode Capital Management ▪ Invesco ▪ Jennison Associates ▪ Kempen 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ KLP Kapitalforvaltning ▪ Legal & General ▪ LocalTapiola AM ▪ Lord Abbett ▪ Mackenzie Investments ▪ Manulife ▪ MFS Investment Management ▪ New York City Pension Funds ▪ Norges Bank ▪ Norges Bank ▪ Northern Trust Investments ▪ Oasis ▪ Parametric ▪ Pictet AM ▪ Skagen Funds ▪ State Street Global Advisors ▪ SunAmerica AM ▪ SunSuper ▪ State of Wisconsin ▪ T. Rowe Price ▪ Vanguard ▪ UBS AM 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ブラックロック ▪ 日興アセット ▪ 三菱UFJ国際投信 ▪ Nuveen ▪ Vaughan Nelson IM ▪ 農林中金全共連アセット ▪ Equitable IM ▪ 信金アセット ▪ 岡三アセット 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 野村アセット(岡田隆夫氏、杉田伸樹氏、山添茂氏に反対投票) ▪ 三井住友トラストアセット(岡田隆夫氏、浅野隆史氏、土畑雅志氏、杉田伸樹氏、山添茂氏、遠藤邦夫氏、引頭麻実氏に反対投票) ▪ 明治安田アセット(大石歌織氏に反対投票) ▪ りそなアセット ▪ 三菱UFJ国際投信 ▪ 大和アセット ▪ 東京海上アセット ▪ 三井住友DSアセット ▪ ニッセイアセット ▪ 第一生命 ▪ GSAM

フジテックの主張①: 2022年定時株主総会の結果 (3/3)



Takakazu Uchiyama

フジテックが必死に閲覧・謄写を拒否し続けている内山高一氏再任議案の**実際の結果にかかわらず**、問題なのはフジテックが**株主の最も基本的な権利である株主の議決権行使結果を無視し**、内山氏を**株主に対して説明責任を負わない(しかし有給の)会長職に任命**したことであり、**現在の社外取締役は責任を負うべきです。**



フジテックの主たる機関投資家による、2022年第75期定時株主総会における内山高一氏再任議案の議決権行使指図結果

フジテックの主張②: 内山家を巡る問題(1/4)

フジテックは内山高一会長の就任を巡って数々の主張を繰り広げており、その多くには虚偽の内容や過去の開示資料との矛盾、株主の誤解を招く表現など、どこから手を付けていいのかわからないほど多くの問題点があります。

主張 #1

内山氏の取締役選任議案の取り下げは、第三者委員会の調査に関するステークホルダーの懸念によるもの

フジテックは第三者委員会の設置を定時株主総会開催の1週間前に発表しています。内山氏の選任議案は総会開始の僅か1時間前に取り下げられており、その時点では既にフジテックは内山氏が負けたことを認識していた可能性が高く、前夜には、内山氏の解任を回避するべく、フジテックは株主に対して投票変更を呼びかけていました。フジテックの「内山氏の取締役選任議案の取り下げは、第三者委員会の調査に関するステークホルダーの懸念によるもの」との主張は事実と異なり、内山氏の解任が投票で確定となっていたからこそ議案は取り下げられました。

主張 #2

内山氏は社長就任以来20年間、経営者として最前線で活動

内山氏は実力ではなく縁故主義の結果、社長の座に就き、その地位を維持していました。その間、フジテックの業績は同業他社を下回り続け、取締役会は株主の利益を追求せず、内山家との不適切な関連当事者取引を承認し続けていました。今、社外取締役は内山高一氏の影響力の保護のために、株主の声を無視し続けています。

主張 #3

会長就任は内山氏の退任が事業へ大きな影響を与えるため

エレベーター業界の商習慣を考えると、それが真実ではないことは明かです。顧客がエレベーター業者を選ぶ際には、企画力・価格競争力・納期スケジュール等が基準となります。また、フジテックのこの主張はオアシスが従前より指摘し続けている後継者育成計画の欠如および根強い縁故主義に対する懸念を再確認させるものです。これらのガバナンス上の弱みは直ちに解決の必要があり、新しい独立社外取締役は、実力主義で評価される適切な後継者育成計画の策定がなされるよう監督する必要があります。

オアシスは現在のフジテック社内に蓄積されている知見や経験がフジテックがすべてのステークホルダーに対する価値創造のために十分な水準であると理解しています。オアシスが昨年の定時株主総会以前に内山前社長と面談した際には、事業関連の質問には岡田現社長および土畑取締役が全て回答していました。

主張 #4

会長就任は内山氏の退任に対する従業員の不安が大きいため

フジテックの一部社員の間で内山氏は「天皇」と呼ばれているそうです。創業家との不適切な関連当事者取引に関与しない会社にて働けることを喜ばしく思う従業員は若手から管理職まで多数存在するのではないのでしょうか。フジテックにおける根深い縁故主義、特に内山雄介氏の不明瞭な立ち位置は、実力主義の重要性を薄め、企業文化に大きな影響を与えていると思われます。また、社員を「総務業務／アルバイト」と称して自宅を清掃させていた内山氏に対して、果たして従業員がどこまで尊敬の念を抱いているのかは疑わしく思えます。

フジテックの主張②: 内山家を巡る問題(2/4)

内山高一氏は、オペレーションに関する質問を投げ掛けられても社内取締役（岡田現社長、土畑氏）に回答させるなど、中期経営計画「Vision24」の執行に関しても責任を取ろうとしませんでした。



2023年3月期：フジテックは昨年11月に業績予想を下方修正し、Vision24の目標達成は非現実的（[前回資料](#) p.66-77）

2023年3月期実績と目標値のアップサイド

	2022年3月期実績	2025年3月期目標	アップサイド	23年3月期業績予想 *1
売上高	1,870億円	2,350億円	+25.7%	2,070億円
営業利益	138億円	220億円	+59.4%	105億円
営業利益率	7.4%	9.4%	+2.0pt	5.1%
ROE	9.1%	12.0%	+2.9pt	5.2% *2

2022年4月14日ーオアシス(Seth Fischer)と内山高一氏との会話

- セス・フィッシャー:** 3000個の販売目標を達成できない場合、会社ではどなたが説明責任を負いますか？
- 内山高一氏:** 説明責任というか、我々としては、そういうマーケットの中で一生懸命やるということでございます。
- セス・フィッシャー:** では、Vision2024が失敗した場合の責任の所在は？誰が責任を取るのですか？
- 内山高一氏:** 説明責任というよりも、前回は申しましたように積み上げでこの数字を出してきております。そういう意味で、トップダウンで作った数字でもございませんし、そういうところは是非ご理解いただきたい。
- セス・フィッシャー:** Vision2024は達成可能でしょうか？この計画にあなたは責任を負っていますか？誰が責任を負っていますか？
- 内山高一氏:** プランとしては、達成可能だから開示している。これまでも当社の開示ということで、毎年目標数字を出しているが、私はすべて達成ししていると考えている。前回の中期経営計画も達成している。
- セス・フィッシャー:** あなたは、責任を負っていますか、内山さん？
- 内山高一氏:** 説明責任というか、結局、きっちりした積み上げでやった結果なので、そこはよく理解いただきたい。マイクロやマクロをみて、こういう状況で、コロナなどの不足の事態も出てくるかもしれないが、全力でレビューさせていただきたいと思っている。

フジテックの主張②: 内山家を巡る問題(3/4)

フジテックは内山高一氏が株主総会における承認を経ず、株主に対する説明責任を負わない、有給の会長職に就任したことに関する説明に困窮しています。

- 開示資料内にて、内山氏は「**現経営に関与していない**」とする一方、その直後に、内山氏は「**執行サイドが...事業に関連したアドバイスを依頼する**」と記載しており、フジテック自体も内山会長の役割を明確に理解できていないように見受けられます。
- 内山高一氏は、**20年前**にその地位を継承し、以来その地位を維持し続けていました。もし取締役会が純粋な動機で内山氏の選任決議を撤回したとするならば、以下のような行動を取ったはずではないでしょうか。
 - 内山高一氏を有給の会長職に祭り上げるのではなく、進行中の第三者委員会の調査に対して**一切の影響**を与えられないよう距離を置かせていたはずである
 - **内山高一氏の息子である内山雄介氏（執行役員）についても**、関連当事者取引は内山雄介氏を含む内山家に関わるものであることから、第三者委員会の調査中においては、**フジテックから距離を置かせるべきであった**。なお、内山雄介氏は、不適切な関連当事者取引が疑われ、市場価格以下で内山家の保有する法人へ売却された超高級マンションに居住していた本人です

フジテック社外取締役のこれまでの行動および社外取締役の内山氏に対する忠誠心を踏まえると、内山家の支配力および影響力は公的に認められるよりも遥かに深刻なものであることは明らかであり、フジテック取締役は株主が納得いくような十分な説明ができていません。

フジテック取締役が内山家の支配を維持するために築いた「砂上の楼閣」はその真相が段々と露わになってきており、フジテックは必死に嘘を重ね続けるしかない状態となっています。

フジテックの主張②: 内山家を巡る問題(4/4)

フジテックの主張は変化し続けており、最近は英文開示資料で内山氏の肩書を「名誉会長」にすり替えています。

2022年6月23日
フジテックは内山氏が「会長」(“Chairman”)に就任したことを公表
([英文](#)) ([日本語](#))

2022年7月7日
コーポレート・ガバナンス報告書には「会長」“Chairman”と記載

2022年11月29日
オアシスとの面談にて、土畑氏(社内取締役)は内山氏の肩書について「会長」“Chairman”と説明

2022年2月10日
フジテックはISSに対する反論資料にて、内山氏の肩書を日本語は「会長」とする一方、英文では“Chairman Emeritus”(名誉会長)へと変更

コーポレート・ガバナンス報告書 ([英文](#), [日本語](#))

内山氏の正式な肩書は英語では“Chairman”

[Status of Individual(s) Resigning as Representative Director and President, etc.] [Link](#)
Name(s) of counselors, advisors formerly serving as representative director and president, etc.

Name	Title	Duties	Employment Terms (Full-time, part-time, compensation, etc.)	Date Retired as President, etc.	Term
Takakazu Uchiyama	Chairman	Management Advice	Full-time / compensation	June 23, 2022	1year

内山氏の正式な肩書は日本語では「会長」

元代表取締役社長等である相談役・顧問等の氏名等 [Link](#)

氏名	役職・地位	業務内容	勤務形態・条件 (常勤・非常勤、報酬有無等)	社長等退任日	任期
内山 高一	会長	経営に関する助言	常勤 / 報酬有	2022/06/23	1年

フジテックのプレスリリース([英文](#), [日本語](#))

英文肩書を“Chairman Emeritus”すり替え...

② Mr. Takakazu Uchiyama's Appointment as Chairman Emeritus

We made the decision to withdraw the proposal to appoint Mr. Uchiyama as a Director following the decision to establish a Third-Party Committee to investigate Related-Party Transactions, which was decided after much internal discussion as well as input from shareholders. We felt it would be logical for Mr. Uchiyama to not be involved in management during this investigative period. The reason for our appointment of former President, Mr. Takakazu Uchiyama (“Mr. Uchiyama”), whom the Shareholder Proponent considers to be problematic, as Chairman Emeritus, was to minimize the impact on our business during this period of time.

日本語の肩書は「会長」のまま

② 内山高一氏の会長就任

当社は、関連当事者取引に関する第三者委員会の設立に伴い、内山氏の取締役選任議案を取り下げる判断をいたしました。提案株主が問題視している前社長内山高一氏(以下「内山氏」といいます。)の会長就任は、当事業への影響を最小化することが目的でございました。

内山会長の肩書を変更

フジテックですら内山氏の「会長」という役割について釈然としておらず、その証拠として直近にフジテックが開示した英文開示資料内で突如として内山氏の肩書がただの「会長」から「名誉会長」の意味である“Chairman Emeritus”へすり替わっております(日本語の肩書は変化なし)。

内山氏は「会長」であれ「名誉会長」であれ、フジテックに対して絶対的な影響力を有します。

フジテックの主張③: 第三者委員会の調査

オアシスはこれまでのキャンペーン資料を通じ、フジテックと内山家の間の関連当事者取引に関して、初めに実施された外部調査において、利益相反のある法律事務所の起用を行っている問題点を指摘しています。更に、その後の追加調査のために設置した第三者委員会についてもその委員構成に重大な欠陥がある旨を指摘しています。

- 初めの外部調査に係る問題については、[こちら](#) (p.19-21) をご参照ください
- 第三者委員会の設置に係る欠陥については、[こちら](#) (p.22-23) をご参照ください

独立性を欠く取締役により指名・設置された欠陥だらけの第三者委員会が行う調査について、真に独立した取締役会が設立されるまでは、株主が結論を導きだすことは難しく、オアシスとしてはこれ以上コメントする理由はないと考えます。

FUJITEC

「当社取締役会は、本取引に対する、株主をはじめとするステークホルダーの皆様の疑念を払拭し、更にご安心いただくべく、本日、臨時取締役会において、第三者委員会を設置し、本取引の追加調査及び検証を実施することを決議しましたので、お知らせいたします。」



追加調査のための第三者委員会は、設置から既に6か月以上が経っているにもかかわらず、いまだに何の情報も発見・開示していません。

特に複雑な調査はないと思われる中で、これほどの遅滞は説明が付きません。

フジテックの主張④： フジテックはオアシスの予期せぬタイミングの請求に困惑

OASIS オアシスは、フジテックの経営陣・社外取締役・IR担当者との面談を求め続けてきました

FUJITEC 「Oasisから本臨時株主総会の開催請求を受け、当社といたしましても**予期せぬタイミング**での請求に困惑しております」

2022年6月23日に開催された定時株主総会にてフジテックが株主による議決権行使を無視し、説明責任を果たさないまま内山高一氏を会長に指名したことにオアシスは驚きと深刻なショックを受け、岡田社長および社外取締役全員とのIR面談を直ちに要請しました。しかし、フジテックはそれに対し、**定時株主総会から既に5ヶ月が経った**、2022年11月29日にやっと、土畑社内取締役およびIR担当執行役員との面談という形で応じました。

2022年	出来事
6月23日	第75期定時株主総会 (内山高一氏の再任議案を株主総会開催直前に取り下げ、株主総会后に会長職への就任を承認)
6月27日	オアシスは、株主権利を無視する形の取締役決議について、岡田社長および社外取締役全員とのIR面談の開催を要請 フジテックは7月1日に面談実施を一度承諾したものの、 後日キャンセルされた
10月13日	オアシスがフジテックに対して次の内容を含むレターを送付：①内山家のために会社資産を濫用することを止めること、 ②内山家の保護のために第三者割当増資を実施しないこと、③内部告発者に対する報復を止めること
11月29日	オアシスは土畑社内取締役およびIR担当執行役員と面談を実施(しかし、 コーポレート・ガバナンス関連の質問は禁止)
12月1日	オアシスが社外取締役全員を交代させるための臨時株主総会の開催を請求

責任を逃れ続けようとする行為

フジテックは株主を不平等に扱い、明言を避け続け、説明責任を逃れようとしてきました。オアシスからフジテックに対して、関連当事者取引・ガバナンスについて直接質問する機会はいまだ一切与えられませんでした。特に昨年の定時株主総会の後、筆頭株主であるオアシスに対して他の株主から「**フジテックは何故株主と会わないのか**」という趣旨の問い合わせが多数寄せられました。

フジテックの主張⑤: 社外取締役候補者との面談プロセス(1/2)

OASIS オアシスは利益相反関係にある現任の社外取締役によるオアシス側候補者の面談は適切でない旨を繰り返し主張してきました

FUJITEC 「指名・報酬諮問委員会の社外取締役による面談を打診したものの（一般的なガバナンス慣行）、Oasisより拒否されたため、社内取締役が候補者全員との面談を実施」

フジテックはオアシスが、オアシス側の社外取締役候補者とフジテックの社外取締役との面談を拒否し、代わりにフジテックの社内取締役との面談を要請したことを批判しています。

オアシスはこの度、現任の社外取締役を解任し、その後任となる社外取締役候補者を議案に上程しています。2022年12月14日にフジテック側のアドバイザーである三浦法律事務所の鍵崎亮一パートナーが現任社外取締役（杉田伸樹氏・山添茂氏）による面談を打診してきて以降、オアシスはフジテックに対し現任社外取締役によるオアシス提案の社外取締役候補者の面談は適切ではない旨を再三にわたり伝えてきました。

明らかな利益相反と、おかしい反論

これは、フジテックの主張の中でも特におかしい主張の一つであり、フジテックが利益相反の概念を十分に認識、理解できていないことを示しています。現任の社外取締役がオアシス側の社外取締役候補者を面談することは、明らかな利益相反となります。簡単に言い換えれば、自身の役職に取って代わるための候補者に対する面談を、その従業員自身が行うのは、不適切と考えるのと同じことです。

フジテックがその他の利害関係者よりも内山家を優先させることを問題視しない背景にはこのような利益相反に対する理解の乏しさがあると考えられ、ガバナンス体制の立て直しが急務であることは明らかです。

**フジテックにおける指名委員会及び指名プロセスは
欠陥だらけで、既に破綻しています。
フジテックにおけるガバナンス体制を真に改善できるのは、
新たに選任された独立社外取締役だけです。**



次のページ...

本件に関する
フジテックと
オアシスの
やり取りの詳細

フジテックの主張⑤: 社外取締役候補者との面談プロセス(2/2)

2022年12月14日 OASIS

オアシス側弁護士からフジテック側弁護士への回答

オアシスは、フジテック社の現社外取締役がインタビュープロセスに関与することを認めることができません。なぜなら、これらの現社外取締役は、インタビューで社外取締役候補者の信用を失墜させ、第2号議案として提案されている社外取締役選任議案を株主総会で否決させることが自分の利益につながるという利害関係を有しているからです。現在の社外取締役の解任議案である第1号議案と新社外取締役選任議案である第2号議案は互いに密接に関連した株主提案です。第2号議案に関して社外取締役候補者の選任に賛成する株主は、第1号議案の投票において、インタビューに参加した社外取締役を含む現社外取締役の解任に賛成する可能性が極めて高いと思われます。従って、これらの現社外取締役は自分がインタビューに参加する場合には、社外取締役候補者の信用を失墜させることが自己の利益につながるという利害関係を有しております。このような利害関係を有する現社外取締役が社外取締役候補者のインタビューに参加すれば、深刻な利益相反の懸念を生じさせることが明らかです。

従って、社内取締役がインタビューを行うべきです。また、このインタビュープロセスは、社外取締役ではなく業務執行を担う社内取締役が責任を負うべき会社の業務執行の一部であるため、その観点からも社内取締役がインタビューを行うことは理にかなっていると考えます。

2022年12月16日 FUJITEC

フジテック側弁護士からオアシス側弁護士への回答

利益相反のご指摘については、当社においては役員を選解任に関する事項については指名・報酬委員会が審議の上、取締役会に答申を行うこととされており、当社規程に沿った手続となります。各社外取締役は、自身の解任議案について取締役会における審議・採決に参加いたしません。

フジテックは、オアシス側候補者への面談を利害関係のある現任社外取締役が行うべきであると2週間にわたって主張し続けました

2022年12月28日 OASIS FUJITEC

オアシス側弁護士からフジテック側弁護士への回答

インタビューのご提案には、オアシスと候補者の懸念事項である利害相反の問題を含む社外取締役の方の関与についてお答えが依然ありません。依然として問題ではなく、報酬指名委員会所属の取締役がご担当されるということでしょうか？利害相反が無いというご認識でしょうか？

フジテック側弁護士からオアシス側弁護士への回答

(社外取締役が株主提案の社外取締役候補を面接することは、) 利益相反・利害相反ではありません

フジテックの主張⑥: 社外取締役の資質(1/4)

フジテック側の弁護士との会話において、オアシスはフジテックが指名する取締役候補者2名の独立性に関する疑問点を指摘しています。

- **岩崎氏**は、北浜法律事務所の佐伯照道氏と既存の関係性があり、内山家に近い法律事務所（北浜法律事務所と思われる）から紹介を受けている（本指摘に対してフジテックからの回答はありません）
- **海部氏**は、本キャンペーンにおいて内山氏側の法務アドバイザーを務める三浦弁護士および内山雄介氏と既存の関係性がある（本指摘に対してフジテックからの回答はありません）

「実質より形式」

フジテックは社外取締役の独立性の証明において、東京証券取引所の独立性基準に依拠していることばかりを主張しています。**「形式」の充足のみを重視し、本来注視すべき「実質」を軽視していることは明らかで、同社のガバナンス体制の脆弱性が露見**しています。実質的には独立していないことが判明している際に、形式的な定義への適合可否は意味を成しません。

フジテックは筆頭株主であるオアシスに対し、フジテックの社外取締役候補者との面談を拒否しており、上記2名の独立性に更なる疑義を生じさせます。

これは、フジテックの指名委員会およびガバナンス体制が破綻していることを示す新たな証拠にほかなりません。だからこそ、フジテックは真に独立した取締役を指名できず、内山家の影響力の維持を優先させる意思決定を行っているのです。

フジテックの主張⑥: 社外取締役の資質 (2/4)

海部氏の略歴に疑問符: ENOTECH Consulting, Inc? LLCではないか?

候補者番号2



かいふ みち
海部美知
生年月日 1960年3月12日

新任
社外
独立

略歴、地位および担当ならびに重要な兼職の状況:

- 1983年3月 一橋大学社会学部卒業
- 1983年4月 本田技研工業株式会社入社
- 1989年6月 スタンフォード大学ビジネス大学院 (MBA) 修了
- 1989年9月 日本電信電話株式会社入社
- 1996年5月 NextWave Telecom Inc.入社
- 1998年8月 ENOTECH Consulting, Inc. 設立、CEO (現任)
- 2020年2月 早稲田大学経営大学院非常勤講師
- 2020年6月 テクマトリックス株式会社社外取締役 (現任)
- 2021年7月 Harmonic Drive LLC社外取締役 (現任)
- 2021年9月 成蹊大学グローバル教育プログラムEAGLE客員教授 (現任)

※ ビッグデータやシリコンバレーに関する著書あり

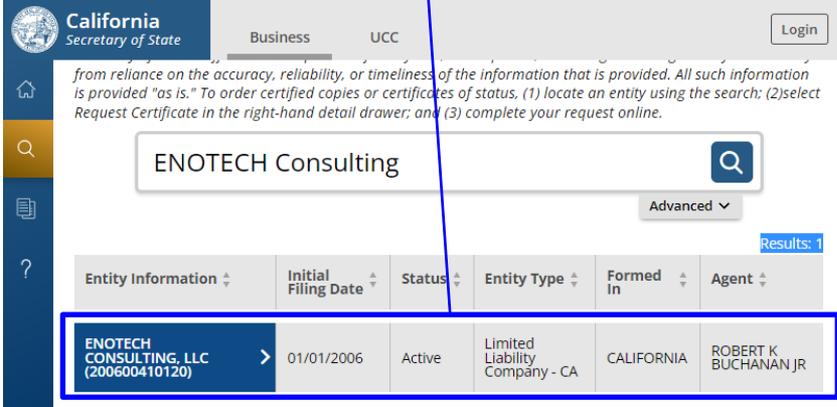
社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要:

海部氏は米国に居住しながら自身で起業したコンサルティング会社を営み、日本とアメリカのIT産業及びベンチャー企業に関する、過去20年以上にわたる知見と経験に基づいた調査分析とアドバイスを提供しています。こうした経験により培われた豊かな見識に基づき、グローバルな視点、特にテクノロジー領域における有益な提言、助言を頂けるものと判断しています。

スキル グローバル、IT・テクノロジー、ガバナンス

ENOTECH Consulting, Inc.にまつわる疑問

- ✓ California州のSecretary of Stateによれば、“ENOTECH Consulting, Inc.”という法人の登録は見当たらなかった。
- ✓ その代わりに、“ENOTECH Consulting, LLC”という法人が2006年1月1日に登録されていた。
- ✓ 小さなLLC (Limited Liability Company) を誤魔化すために、世間には“Inc.”と名乗り、大きな会社であることを装っているのではないかとオアシスは懸念しています。



The screenshot shows the California Secretary of State website search results for "ENOTECH Consulting". The search results table is as follows:

Entity Information	Initial Filing Date	Status	Entity Type	Formed In	Agent
ENOTECH CONSULTING, LLC (200600410120)	01/01/2006	Active	Limited Liability Company - CA	CALIFORNIA	ROBERT K BUCHANAN JR

アメリカ中小企業庁のHPIにおけるENOTECH Consulting, LLC.に関するデータ (Paycheck Protection Program)



承認日	申請内容	借主	借主の属する州	ローン日	ローン状況	月数	SBAによる保証割合	初回承認額	現在の承認額	構成員数	事業の種類
June 15, 2020	PPP	ENOTECH CONSULTING LLC	CA	05/11/2021	全額振込済	60	100	USD 20,833	USD 20,833	1	個人事業主

- ✓ 2020年に2.1万ドルのPay Check Programに基づく中小企業向け融資を受け、その額は会社が支払う人件費の総額約2.5カ月分に相当すると理解されています。
- ✓ 上述の通り、開示されている公的な記録によると、ENOTECH Consulting, LLC.の属する構成員は1名のみです。

海部氏のスキルマトリックスにおいて、「企業経営」に✓が入っていますが、こちら、株主の誤解を招くフジテックの開示です。

フジテックの主張⑥: 社外取締役の資質 (3/4)

海部氏の略歴に疑問符: 本当にHarmonic Drive LLCの社内取締役なのか?

候補者番号2



かいふ みち
海部美知
生年月日 1960年3月12日

新任
社外
独立

略歴、地位および担当ならびに重要な兼職の状況:

1983年3月 一橋大学社会学部卒業
 1983年4月 本田技研工業株式会社入社
 1989年6月 スタンフォード大学ビジネス大学院 (MBA) 修了
 1989年9月 日本電信電話株式会社入社
 1996年5月 NextWave Telecom Inc.入社
 1998年8月 ENOTECH Consulting, Inc. 設立、CEO (現任)
 2020年2月 早稲田大学経営大学院非常勤講師
 2020年6月 テクマトリックス株式会社社外取締役 (現任)
2021年7月 Harmonic Drive LLC社外取締役 (現任)
 2021年9月 成蹊大学グローバル教育プログラムEAGLE客員教授 (現任)

※ ビッグデータやシリコンバレーに関する著書あり

社外取締役候補者とした理由および期待される役割の概要:

海部氏は米国に居住しながら自身で起業したコンサルティング会社を営み、日本とアメリカのIT産業及びベンチャー企業に関する、過去20年以上にわたる知見と経験に基づいた調査・分析とアドバイスを提供しています。こうした経験により培われた豊かな見識に基づき、グローバルな視点、特にテクノロジー領域における有益な提言、助言を頂けるものと判断しています。

スキル	グローバル、IT・テクノロジー ガバナンス
------------	-----------------------

Harmonic Drive LLC社外取締役とは一体何か?

- ✓ Limited Liability Company (LLC) に、取締役会はありません。LLCの運営を行うのは、LLCの構成員であるMemberがManagerに委託する場合、Managerです。上記の通り、海部氏はHarmonic Drive LLCのManagerではありません。

フジテックは、海部氏の本当の役職や役割を開示すべきです。こちら、株主の誤解を招くフジテックの開示です。



William Francis Galvin
Secretary of the Commonwealth of Massachusetts

HOME DIRECTIONS CONTACT US

Corporations Division

Business Entity Summary

ID Number: 203942105 [Request certificate](#) [New search](#)

Summary for: HARMONIC DRIVE L.L.C.

The exact name of the Foreign Limited Liability Company (LLC): HARMONIC DRIVE L.L.C.		
Entity type: Foreign Limited Liability Company (LLC)		
Identification Number: 203942105	Old ID Number:	
Date of Registration in Massachusetts: 12-21-2005		
Last date certain:		
Organized under the laws of: State: DE Country: USA on: 12-13-2005		
The location of the Principal Office:		
Address: 42 DUNHAM RIDGE		
City or town, State, Zip code, Country: BEVERLY, MA 01915 USA		
The location of the Massachusetts office, if any:		
Address: 42 DUNHAM RIDGE		
City or town, State, Zip code, Country: BEVERLY, MA 01915 USA		
The name and address of the Resident Agent:		
Name: CORPORATION SERVICE COMPANY		
Address: 84 STATE ST.		
City or town, State, Zip code, Country: BOSTON, MA 02109 USA		
The name and business address of each Manager:		
Title	Individual name	Address
MANAGER	ZHONGMIN JOE YANG	247 LYNNFIELD ST. PEABODY, MA 01960 USA
MANAGER	DOUGLAS OLSON	247 LYNNFIELD ST. PEABODY, MA 01960 USA
MANAGER	TAKESHI NAKAHIRA	247 LYNNFIELD STREET PEABODY, MA 01960 USA
MANAGER	MASAKAZU KUTITA	247 LYNNFIELD STREET PEABODY, MA 01960 USA
MANAGER	ROBERT MULLINS	247 LYNNFIELD ST. PEABODY, MA 01960 USA
The name and business address of the person(s) authorized to execute, acknowledge, deliver, and record any recordable instrument purporting to affect an interest in real property:		
Title	Individual name	Address
REAL PROPERTY	RON GOLINI	42 DUNHAM RIDGE BEVERLY, MA 01915 USA
REAL PROPERTY	RON GOLINI	247 LYNNFIELD ST. PEABODY, MA 01960 USA

Consent
 Confidential Data
 Merger Allowed
 Manufacturing

[View filings](#)

Comments or notes associated with this business entity:

Limited Liability CompanyはMember (または、Memberが選任するManager) が業務運営を行います。取締役 (Director) はいません。

フジテックの主張⑥: 社外取締役の資質(4/4)

下記のスキルマトリックス（詳細は前回資料p.50-54を参照）の通り、オアシス側の社外取締役候補者は現任の社外取締役よりも遥かに高いマネジメント資質を備え、フジテックの企業価値向上への貢献がより期待できます。

	独立性	企業経営 / 経営戦略								エレベーター 業界経験者	知財
		グローバル	テクノロジー	財務/ 会計	法務/ コンプライアンス	リスク 管理	サステナ ビリティ	ガバナンス	M&A/ 資本市場		
杉田											
山添		✓	✓						✓		
遠藤		✓	✓	✓							
引頭		✓		✓	✓						
三品		✓						✓			
大石					✓						
岩崎		✓	✓			✓			✓		
海部		?	✓	✓							
浅見	✓	✓	✓	✓	✓				✓		
グラニンジャー	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓		
海野	✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓		
ウィルソン*1	✓	✓	✓			✓	✓	✓	✓	✓	
嶋田	✓	✓	✓		✓	✓		✓	✓		✓
ゲスナー*1	✓	✓	✓			✓		✓	✓	✓	✓

フジテックは、オアシス提案の社外取締役が適格性を欠き、当社のガバナンスの向上に貢献できないと主張しています。その根拠として、フジテックは自ら作成したスキルマトリックスを開示していますが、それは、ダブルスタンダードを都合よく使って操作されたものでした。
(詳細は、[オアシス資料](#))

フジテックの主張⑦: 経営支配権

フジテックは、オアシスの真の狙いについて「経営支配権の取得」と主張していますが、これは全くの事実無根です。オアシスの目的は、業務執行取締役（社内取締役）を対象としていません。オアシスの目的は、フジテックが内山家の支配から解放され、その取締役がすべての株主を平等に扱うよう、フジテックのコーポレート・ガバナンスを改善することです。

**オアシスの目的は、
取締役がすべての株主を平等に扱うよう、フジテックのコーポレート・ガバナンスを改善することです。**

オアシスがこれまで何度も指摘してきた通り、現任の社外取締役は全員、他のステークホルダーよりも内山家を優先した意思決定を取締役会で下しています。フジテックの真の狙いは、フジテックに内山家の支配を維持することです。現任のフジテックの社外取締役は、日本の社外取締役のあるべき姿と比して誠実さと能力に欠けているというほかありません。

全てのフジテック利害関係者のための取締役会に

オアシスはこの度、フジテックからも、オアシスからも、完全に独立した社外取締役候補者を選出しており、フジテックでさえその独立性を否定していません。オアシス提案の社外取締役候補者は、単にガバナンスの強化に貢献するだけでなく、業務オペレーション、売上拡大および利益率の向上、リスク管理、投資プロセスの改善に貢献できます。

**オアシス提案の社外取締役候補者は
フジテックを内山家の支配から解放して企業価値を向上させ、全ての利害関係者に利益をもたらします。**

フジテックのFAQ(誤情報)に対する反論(1/5)

FUJITEC

Q1 なぜ内山氏の選任議案を取り下げたのか

関連当事者取引に関する第三者委員会を立ち上げることを決議したことに伴い、調査結果が出るまで取締役就任しないことを取締役会で判断したためです

OASIS

前述のとおり、フジテックのこの主張は事実と矛盾した説明です。第三者委員会を設置したのは選任議案取り下げの一週間前であり、委員会設置後も、株主に投票を変更するように総会直前まで電話をしています。

FUJITEC

Q2 会長はどのような役割を果たしているのか

20年以上トップを務めていた内山氏が退くことに伴う事業への影響を最小限に留めるため、取締役でも執行役員でもない、アドバイザーの位置づけとして会長に就任しております

OASIS

前述のとおり、内山氏は株主総会での承認を経ず、株主に対する説明責任を負わない会長という立場で、経営陣へアドバイスという名目でフルタイムの給与を受け取っています。そして、同氏の会長就任以降も、息子の内山雄介氏を通じて影響力の維持が可能となっています。

OASIS

フジテックのFAQ(誤情報)に対する反論(2/5)

FUJITEC

Q3 提案株主から現在の第三者委員会が独立性がないと言われているが、詳細について教えてほしい

2022年8月に設置した第三者委員会の委員は適切なプロセスを経て選任されており、委員会の設置にはOasisが指摘するような不備は存在しません

OASIS

前回プレゼンテーション資料の[こちら](#) (p.22-23) および[こちら](#) (p.26-30) に記載のとおり、オアシスは新たに設置された第三者委員会が明らかに内山家の責任逃れのためであることを示しています。現在の第三者委員会の委員長である小林英明氏は、以前同氏が東洋ゴムで実施した不祥事調査や、[日経新聞の記事](#)などを通じて、[日本弁護士連合会が定めた第三者委員会のベストプラクティス](#)には従わないと公に繰り返し主張しており、独立性・中立性・利害関係者のための公正な調査を主導する能力が非常に疑問視される人物です。過去に経営陣の利益を他のステークホルダーの利益よりも優先していたと非難されていたこともあります ([第三者委員会報告書格付委員会](#))。

また、委員同士も互いに独立性がなく、委員の一名の辺 誠祐氏は小林氏と同法律事務所および同リスク管理チームに所属する同僚です。フジテックはオアシスのこれらの指摘に対して全く回答していません。

フジテックのFAQ(誤情報)に対する反論(3/5)

FUJITEC

Q4 なぜ会社提案の社外取締役2名の選任議案をこの臨時株主総会で上程したのか

更なるガバナンス向上や中期経営計画「Vision24」の達成に向けて、2023年6月定時株主総会において2名の追加選任を検討しておりました。今回臨時株主総会の開催請求があり、先んじて上程をした次第でございます

Q5 会社提案の2名の社外取締役は必要なのか

岩崎氏は他のメーカーや社外取締役の経験から、経営戦略や事業戦略などの新しい視点を頂き、海部氏はシリコンバレーでの経験からグローバルな視点やテクノロジーに関する助言を頂けると判断しており、「Vision24」達成に向けて、必要なスキル拡充と判断しております

Q6 現任の社外取締役は独立した立場といえるのか

当社の社外取締役は全員が、東京証券取引所が求める独立性基準を満たすことから、東京証券取引所に対し独立役員届出書を提出済みとなります。当然ながら当社との取引関係はなく、全員が独立しております

OASIS

前述の通り、会社提案の社外取締役はフジテックの関係者やアドバイザーと既存の関係があり、真に独立していません。東京証券取引所の独立性基準に依拠して独立性を説明することは、「実質よりも形式」を重視することであり、実態を反映していません。また、前述の通り、真の独立性に加えて、フジテックの企業価値の向上に資する多様なスキルを提供できる、より高い資質を備えるオアシス提案の社外取締役候補者を差し置いて、現任及びフジテック提案取締役候補者を正当化するために、数々のダブルスタンダードが適用されています。

OASIS

フジテックのFAQ(誤情報)に対する反論(4/5)

FUJITEC

Q7 提案株主の候補者が2名辞退した理由は？

当社から株主提案候補者に対して、リファレンスの依頼レターの送付や面談の打診を行ったものの、辞退された2名と面談はなく、提案株主から具体的な説明はされておられません

OASIS

候補者は一身上の都合により、立候補を辞退したというのが、フジテックにも従前より示している公式な回答です。なお、フジテックとそのアドバイザー陣がオアシス側の候補者に対して行っている異常なほど悪質かつ過激な個人攻撃を行っていることからわかるように、それ以上の詳細は株主の皆様のご想像にお任せします。会社提案の2名の社外取締役候補者については、オアシスを含む株主と面談していない一方、オアシス側の社外取締役候補者は2度のウェビナーを通じて、250名以上の投資家からの質問に答えています。

FUJITEC

Q8 株主提案の候補者とは面談していないのか

当初、指名・報酬諮問委員会の社外取締役による面談を打診したものの、提案株主より拒否されたため、社内取締役2名が面談をしています

OASIS

オアシスは、フジテックの現任社外取締役を解任し、その後任となる社外取締役候補者を議案に上程しています。したがって、解任対象の現任の社外取締役がオアシス側の候補者を面談することは、明らかに利益相反であり、だからこそ社内取締役との面談を主張してきました。

フジテックのFAQ(誤情報)に対する反論(5/5)

FUJITEC

Q9 第三者委員会の調査結果はいつわかるのか

全面的に協力しておりますが、独立した第三者委員会に手法・期間を含め調査を依頼しているため、調査結果の開示時期は未定となっております。結果を受領しましたら、速やかに開示いたします

OASIS

委員会設置から既に半年以上経っており、未だに中間報告も開示もないのは不思議ではないでしょうか。

FUIITEC

Q10 提案株主とコミュニケーションはとっているのか

本臨時株主総会の請求以前まで、決算を中心に当社取締役同席の面談を含めコミュニケーションをとっていましたが、突如としたキャンペーンの展開・株主提案に困惑しております

OASIS

フジテックは、スケジュール調整中、途中からは、第三者委員会による調査結果が出るまでコミュニケーションはとれないと主張し、定時株主総会から5ヶ月間、筆頭株主であるオアシスとの面会を拒否しました。最終的には、オアシスとの面談に1度だけ応じましたが、その際も決算の話のみでガバナンスに関する質問は行わないよう要求されました。フジテックの他の株主も同様に面談に応じてもらえなかったとのこと。

また、フジテックはオアシスが要求した会社提案の取締役との面談も拒否しています。

フジテックが数ヶ月間筆頭株主を無視し、ガバナンスの議論を拒否していたことを考えると、この臨時株主総会の招集請求は「予期せぬタイミングで困惑した」などというようなものではありません。困惑しているのはこちらの方です。

フジテックが行った、虚偽開示等のリスト(一部)

 虚偽の開示

 株主を誤解させる開示

	Fujitec's False Statements	The Truth
誤った認識	「ガバナンス先進企業の自負」	客観的に見て、同社のコーポレートガバナンスは日本の中で先進的ではない。 (オアシス資料)
基本的方針	「取締役会は、(中略)この度、「今後は原則として関連当事者取引を行わない」という基本的方針を改めて確認いたしました。(フジテック2022年6月8日開示)	そのような基本的方針はその当時存在していませんでした。 事実として、2022年の第75期定時株主総会以降になってから、そのような方針はコーポレート・ガバナンス・ガイドラインに付記されました。(フジテック2022年6月30日開示)
調査報告書の時系列	「本取引は、いずれも所定の法令・手続等に従ってなされた適法かつ適切な取引及び行為であり、企業統治上も問題はないものと考えております。」(フジテック2022年5月20日開示)	利益相反のある調査者が報告書を提出したのは、左の開示の数日後の2022年5月29日。(オアシス資料)
未了の調査を調査したと主張	当該主張は全くあたらない又は事実誤認に基づく主張であると認識しております。本取引のうち、オアシスが新たに挙げている事項についても、当社にて至急で調査いたしましたことが、事実ではないと確認しております。(フジテック2022年5月20日開示)	関連当事者取引の存在を認めた(オアシス資料)
税務当局からの指摘	「当該取引等に関して、監査法人や税務当局からも疑義が呈された事実は認められませんでした。」(フジテック2022年5月30日開示)	賃料については、レセプションエリアにあったキッチンの取扱いについて国税局からの指摘を受けて、2017年3月1日に変更(増額) (フジテック2023年1月20日開示)(ドムス元麻布概要)(取引時系列)
株主との対話	当社は、(中略)建設的な対話を図るべく、積極的なエンゲージメントを行ってまいりました。(フジテック2022年5月30日開示) 並行して投資家の皆様のご意見を頂戴する為、IR/SR面談を積極的に実施しております(年間150件以上)(フジテック2023年1月20日開示) Oasisから本臨時株主総会の開催請求を受け、当社といたしましても予期せぬタイミングでの請求に困惑しております(フジテック2023年2月10日開示)	フジテックは、オアシスとコーポレートガバナンスについて議論することを拒否し続けた。 また、オアシスは定時総会直後に面談の要請をしたが、「スケジュール調整をしている」といい続け、5か月あとに土畑氏と面談が一度あっただけである。
無担保ローン	内山高一氏が保有する法人への貸付は担保付きであった。 (フジテック2022年5月30日開示)	2023年1月20日の資料からは、「有担保」との言及が消える。 担保が提供された形跡なし。
庭師	フジテックの現従業員が勤務時間中に内山高一氏の自宅の庭の手入れを行い、フジテックが当該現従業員に対して給与を支払っている可能性が指摘されているが、そのような事実は認められなかった。(フジテック2022年5月30日開示)	庭掃除は、フジテックの「総務業務/アルバイト業務に係る雇用」と強弁(フジテック2023年1月20日開示)
票読み	内山高一氏再任議案の撤回は、票読みとは一切関係がない。(記事) Oasisが主張している約65%の反対票が投じられた事実は存在しない(フジテック2023年2月10日開示)	フジテックは内山高一氏への反対投票を賛成票などに換えるように前日に電話をして回っていた。 また、フジテックは、オアシスが議決権行使書面を閲覧・謄写することを拒否。
スキルマトリックス	形式基準のみならず、実質面での能力や経験においても、当社の独立社外取締役は、企業経営やコーポレートファイナンス、法務等の高いハードスキルと、日本を代表する上場企業の役員経験者で構成されていることから、国内最高レベルのプロフェッショナル集団を擁しているという自負がございます(フジテック2023年2月10日開示)	実質的に独立性がない人や、スキルや経歴に疑義がある人も (オアシス資料)
調査者の独立性	平尾寛弁護士がフジテックから独立した弁護士として調査を実施 「平尾弁護士が所属する法律事務所と当社との間には、長年にわたる顧問関係もありません。」(フジテック2022年5月30日開示)	西村あさひ法律事務所と同僚の藤本欣伸弁護士がフジテックを長年代理(オアシス資料)
第三者委員会	「株主をはじめとするステークホルダーの皆様の疑念を払拭し、更にご安心いただくべく」第三者委員会を設置	実態は、結論ありき(オアシス資料)
ISSへの批判	ISS者は独自の分析ではなく、単にOasisの主張を鵜呑みにし、賛否推奨を行ったものと考えております。(フジテック開示2月10日)	ISSはオアシスから独立しています。 他にもあります、..

免責事項

- 本プレゼンテーション資料の情報と意見は、Oasis Management Company Ltd（以下、「オアシス」とする）が情報提供目的またはご参考に供する目的でのみ提供するものであり、財務、法律、税務、投資、会計、監査等の専門家の助言として解釈されるべきものではありません。
- 本プレゼンテーション資料の情報と意見は、機密事項に関わる内容を含んでおり、オアシスが意図した受領者に対してのみ提供されるものです。従って、オアシスの書面による明示的な同意なしにいかなる形式でも転送又は再頒布することを禁止致します。
- 本プレゼンテーションには、将来の見通しに関する情報が含まれている場合があります。そのような情報は、とりわけ、予測等が含まれる場合があります。本プレゼンテーションに記載されている予測等が実現する保証はありません。
- 本プレゼンテーションに記載した情報は、公開情報のなかから、オアシスが信頼しうると判断したものに依拠しています。オアシスは、本プレゼンテーションに記載された情報の正確性を確保するための合理的な努力が払われたと確信していますが、当該情報の正確性、完全性、信頼性について、明示的にも黙示的にも、一切表明または保証するものではありません。オアシスは、本プレゼンテーションに記載された一切の情報
- またはその内容の全部または一部に関して、その利用またはそれへの依拠によって生じたいかなる者の損失についても、または他の形で生じたいかなる損失についても、一切の責任または債務を明示的に否定します。
- オアシスは、本プレゼンテーション資料に記載された情報又は意見について、その改定または追加情報を提供する、または誤りを修正する義務を一切負いません。
- 本プレゼンテーション資料は、受領者に対して、オアシスと共同して特定の会社の株券その他の金融商品取引法における大量保有の状況等に関する開示制度の対象となる有価証券を取得し、若しくは譲渡し、又は議決権その他の権利を行使することを勧誘あるいは要請するものではありません。そのような共同行動をとる株主は大量保有の状況等に関する開示制度の共同保有者とみなされ、共同保有者は一般への情報開示のために合算した保有株式数を関係当局に報告しなければなりません。オアシスは、そのような報告が必要とされる共同保有者としての合意を明示的に締結する例外的な場合を除き、共同保有者としての報告義務を発生させる一切の行為を行わないことをご了承ください。